第１０期　第８回小平市農のあるまちづくり推進会議議事録

1. 開催日時　令和８年１月２２日　（木）　午後２時００分～午後４時００分
2. 場　　所　小平市役所　３階　庁議室
3. 出 席 者　委　員：出席１０名、欠席２名
　　事務局：出席４名

4. 内　　容
（１）　開会挨拶
　　相原会長による挨拶
（２）　第１０期第７回会議の検討内容について
　　第１０期第７回の協議内容について事務局から報告
（３）　直売所スタンプラリー事業の実績報告及び振り返りについて
　　→協議内容については下記に記載する
（４）　第１０期農のあるまちづくり推進会議からの提案内容（案）について
　　第１０期農のあるまちづくり推進会議からの提案内容について事務局から報告
（５）　その他

以下、協議内容

・　スタンプを１５個以上取得した参加者が２３２名おり、スタンプを５０個集めた方は６７名に上り、地域回遊型イベントとしては十分な参加数を確保できた。
・　参加者は３０代から６０代を中心とした幅広い世代が参加し、全戸配布や、産業まつり、SNS を活用したプロモーションも効果があった。一方で、スタンプを１個だけ取得して参加を見送るケースも多く、イベントを継続してもらうような景品や配布条件を設定する必要があり、今後の課題である。
・　参加者の傾向として、市内の中心に位置する直売所や大きな道路に面した直売所を訪れる傾向があり、市内の中心から離れた直売所や人通りが少ない直売所にも、人を集めていくことも今後の課題である。
・　紙ベースとデジタルの両方でイベントを開催するケースが目立つが、今回はデジタルに特化して取り組み、サイトや機械に関するトラブルでの問い合わせは３、４件程度で、参加者比率からすると、そこまで参加者が戸惑うことはなかった。
・　イベントを実施すると開催しているのを知らなかったという苦情が目立つが、イベントのＰＲとしてチラシの全戸配布を行ったため、市民に広くに周知でき、イベントにご理解をいただいた。全戸配布はＰＲとして、重要なツールであると感じる。
・　現時点での商品券の使用枚数を集計したところ、６５４枚の使用があり、配布枚数が８７１枚で、使用率としては７５％程度で、かなり高い数字である。
・　普段来店しないお客さんが３割から４割程来てくれて、直売所をＰＲすることができた。参加者が多かった要因として、景品が魅力的だったことが挙げられると思う。一方、期間が短く、１５個のスタンプを集められなかった人もおり、もう少し期間を長くしても良いと思う。また、スタンプ１５個とスタンプ５０個の間の賞を作っても良いと思う。
・　自宅の近くに様々な種類の農産物を揃えている大きい農家の方がいたのは発見で、その後も継続して通っている。
・　直売所が分からない場所もあり、同じ場所を探し回るようなことが２、３軒の直売所で

あった。また、大きな直売所を見つけて立ち寄ってみたが、そこの直売所はイベントに参加しておらず、今後は参加してほしいと思った。

- スタンプを集めに来た人に話を聞く中で、「とても良い取り組み」と言ってくれる人もいた。とある方は、昼休みにＱＲコードを引っ込めてしまう直売所があったり、農産物を購入してくれないとＱＲコードを出さないという直売所もあったことを教えてくれた。
- スタンプラリーの最終日に直売所を回り、次の日から抽選会が開催されていて、抽選会には参加できなかったが、抽選会場まで行かないと抽選ができないというのは、市外の参加者にとっては大きなハードルであったと感じる。
- 年１回ではなくて、２回やることによって、果物が旬を迎える時期と、野菜が旬を迎える時期に開催するのも良いと思った。
- 景品は今回イベントのように高価にしなくても、１年通して実施することで、ポイントを付与し、ポイントが一定数溜まったら、例えば市役所食堂で開催している地場産農産物を使ったメニューを提供する日に、そのメニューを無料で食べれる招待券を発行するのも良いと思う。知恵を出し合えば、ただ直売所を知ってもらうだけではなく、市内レストランにお客さんを増やしたり、そこに地場産農産物を供給するようなルートができたり、より一層市内の発展に繋がると思う。
- 景品については、以前より少し下げるとなると、参加者が減ったり、苦情が起こったりする。すると、今回のイベントでこれだけの景品を用意したため、景品の質を下げることは難しいように感じる。

５　次回開催（第９回）

令和８年３月２７日（金）午後２時００分から